

私は修学旅行で7日間、フィンランド・エストニアへ行きました。これが初の海外旅行だったので、一生忘れられない思い出となりました。

フィンランドとエストニアは、日本のような高層マンションがなく、あったとしても建物の間隔が空いていて、とても空が広く感じました。

最初に行ったフィンランドのタンペレは、現代風の建物もありましたが、場所が変わると街並みもガラッと変わり、優しい色で塗られた木の大きな家が現れました。そして、教会として使われているタンペレ大聖堂という建物にも行きました。大きな祭壇画や「傷ついた天使」という作品が飾られていました。私はそこで初めて、一度見てみたいと思っていたパイプオルガンを見ることができ、さらに音を聞くこともできました。想像していたよりも、綺麗で体の奥底まで届く素敵な音がして、本当に嬉しかったです。

2番目に行ったのは、エストニアのタリンでした。タリンの旧市街には、レンガ造りで屋根の赤いおしゃれな家がありました。街中を歩くだけですごくおしゃれな気分になり、展望台に上がって上からの景色を見ると「今、私はヨーロッパに来ているんだ」と改めて感動し、日本にはない景色を堪能することができました。

タリンでも、聖ニコラス教会という教会に行きました。ここは、今は博物館の様になっていて、大きな祭壇や、エピタフという聞いたこともないものを見ることができました。タリンでは、現地の学校と交流する機会がありました。同学年とは思えない、足の長い美男美女が多くいました。そこで私はもっと英語を学びたい、喋れるようになりたいと強く思いました。しどろもどろの私の英語が伝わったのかどうかは分かりませんが、とても刺激を受けた楽しい時間を現地の生徒たちと過ごすことができました。

3番目に行ったのは、フィンランドの首都ヘルシンキです。ここでもヘルシンキ大聖堂という、ロシア風の白くてかっこいい教会へ行きました。この日はとても良い天気だったので、青い空に白色の映えた素敵な写真が撮れました。大聖堂は元老院広場の中にあり、そこから見える4つの建物は全て同じ人が設計した建物ということで、落ち着いた気分になれる場所でした。そして、私が最も楽しみにしていたB&Sがありました。一緒に行動してくださった方は、高校生の時に日本に留学した経験がある方で、日本語が上手でした。私たちは、アテネウム美術館に行きました。設計図や切り絵、油絵、彫刻などさまざまな作品がありました。そこで私は「aino-taru」という作品を見つけました。絵が3枚並べてあり、その間に物語りが書かれている作品でした。しかし、その言葉がフィンランド語なのか英語なのかさえ分からず、残念な思いが残りました。もしまたフィンランドに行く機会があり、この美術館に行くことができれば、そのときは物語を読んで理解することができるように勉強を頑張りたいと思いました。

7日間、1度も家に帰らず友達と過ごすのは楽しかったけれど、その中で難しく感じることも多くあ



りました。しかしまた、そこから学ぶこともあり、結果として最高の修学旅行となりました。一生に一度の素晴らしい体験をさせてくれた両親と先生方、添乗員の方々に改めてもう一度お礼が言いたいと思っています。

